

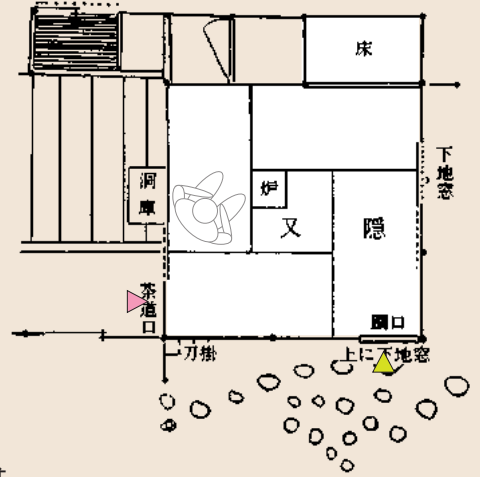
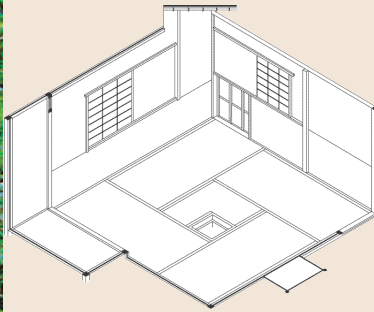
茶室覚書

元伯宗旦 京都 裏千家 1653
四畳半 ゆういん

又隠

外観：茅葺き入母屋作り妻入 軒は低い。
床柱：档丸太、出節をなぐる。花入れ釘は相手柱（仙叟の手法）
床框：おとなしい杉丸太。
天井：躰口側半間を化粧屋根裏、他は網代の平天井。
窓：客座側と躰口上の二ヶ所、突上窓のトップライトが有効
点前座：洞庫が付く

- ・今日庵とともに裏千家を代表する茶室
- ・宗旦が、屋敷を仙叟せんそうに譲り、再び隠居する際に建てる。正面妻側に下地窓が躰口からずれてあく、利休聚楽屋敷の四畳半と同じ構成。
- ・点前座の入隅を塗回して上部に楊子柱を見せる。
- ・仙叟の時代、躰口上の下地窓を連子窓に改めたり、床柱の花入釘を相手柱にも打ち加えたりした。九世不見齋は、利休200年忌に宗旦の時代の下地窓に復して又隠を濃い茶席として茶事を行う。



点前座 楊子柱

